



高知市社会福祉協議会

# 高知市社会福祉協議会の取組 【令和4年度】

社会福祉法人高知市社会福祉協議会

## 共に生きる課

### 【個別支援】

①新型コロナウイルス特例貸付受付終了後の支援について

②権利擁護の推進

③生活困窮者自立相談支援事業

④こうちセーフティネット連絡会  
就労準備支援事業

## 地域協働課

### 【地域づくり】

⑤生活支援ボランティアの養成・活動支援

⑥ほおっちょけんネットワーク会議の運営支援

⑦福祉教育の拡充

⑧その他の地域づくりに関連する取組

(参考)取組エリアの拡がり



新型コロナウイルス感染症の影響による収入減少等の世帯に対し、令和2年3月から令和4年9月末まで生活福祉資金特例貸付の受付に当たった。申請件数は、19,027件にのぼった。借受人の状況は、全体の6割が**男性**であり、**年齢別では40～50代**が約半数、職種別では**飲食業**が最も多く2～3割を占めた。

令和4年6月から緊急小口資金・総合支援資金（初回）の償還免除の受付を開始、**全世界帯の4割を超える世帯から非課税免除の申請を受付けた**。また、令和5年1月からは緊急小口資金・総合支援資金（初回）の償還業務を開始、困窮世帯に対して生活支援相談センターと連携を図り、課題の解決に向けて取り組んでいる。

## ＜新型コロナウイルス特例貸付申請件数（累計）R2.3～R4.9＞

資金種別	申請件数	貸付申請額	備考
特例緊急小口資金	6,979	1,227,040千円	令和4年9月末終了
特例総合支援資金（初回）	5,390	2,824,640千円	令和4年9月末終了
特例総合支援資金（延長）	2,990	1,568,050千円	令和3年6月末終了
特例総合支援資金（再貸付）	3,668	1,942,370千円	令和3年12月末終了
合計	<b>19,027</b>	<b>7,562,100千円</b>	



## 令和4年6月～償還免除申請について

### 【償還免除要件】

・住民税非課税世帯で免除申請を行った世帯数

**2,788件（R4.12末）**

→ 全世界帯約6,700世帯の約**4割**を超える  
 【R5.1～】生活保護受給や手帳所持等

## 今後の取組



- ・償還困難な世帯に対し、ご本人の意向に応じた少額返済等の手続きの案内を行い、負担感の軽減を図る。
- ・償還滞納世帯の課題に対し、解決に向けた情報提供やアウトリーチ(訪問支援)を実施
- ・困窮世帯に対する支援の調整（生活支援相談センターとの連携）



### ◆高知市成年後見サポートセンター

令和4年度より成年後見利用促進基本計画に基づく中核機関となった。(中核機関とは、権利擁護支援を必要とする方を迅速に適切な支援に繋げるために、各関係機関やチームで構成された「権利擁護支援のネットワーク」の中心になって全体のコーディネートを担当する機関。)

### 中核機関の機能と役割

#### 相談対応

##### ・センターでの相談対応 469件

対応頻度が高い内容	年度累計
法定後見・任意後見等成年後見の制度説明	165
情報提供・助言	151
日常生活自立支援事業の制度説明	103
専門職への仲介・紹介	11
等…	

制度に当てはまらない助言が多い

##### ・無料法律相談会 2回

土曜日に開催することで、平日相談できない方も相談しやすい環境を整備。権利擁護に関する法的な相談をすることも可能になった。



#### 連携推進

- ・成年後見サポートセンター運営委員会 2回
- ・地域連携ネットワーク協議会 2回
- ・中核機関審議会 2回
- ・各専門団体との連携会議 24回



＜フォローアップ研修の様子＞

#### 成年後見制度利用促進

- ・支援会議(社協・地域包括、弁護士等で事例検討) 9回

#### 後見人支援

- ・市民後見人材バンクの運営(登録者18名)
- ・市民後見人受任案件 3件(延べ9件)
- ・市民後見人材バンク登録者フォローアップ研修 2回

#### 広報・啓発

- ・出前講座 13回
- ・講師派遣 4回
- ・成年後見セミナー
- ・チラシ・SNS等の活用



### 成果

- ・相談対応ではより丁寧な聞き取りを行い、課題解決に向けて寄り添った情報提供や支援を行った。
- ・専門職団体、家庭裁判所、行政などと連携推進の情報共有や今後のあり方などについて話し合い、顔と顔がつながる関係性構築に努めた。また、後見人を担う専門職、親族らの悩み事が解決できるよう相談支援を行った。
- ・成年後見制度が必要な方が迅速に制度活用につながるよう制度の広報啓発を行うとともに、担い手である市民後見人の人材育成などを行った。また受任調整を行い、迅速に制度へつながるよう支援を行った。

### 今後の取組

- ・市民後見人養成講座の開催
- ・関係機関と連携したセミナーや相談会の開催
- ・市民後見人材バンク登録者活用の検討



## 高知市成年後見サポートセンターで実施している事業

## 法人後見受任事業



親族や専門職など、他に適切な支援が得られない場合、高知市社会福祉協議会が法人として「成年後見人等」を受任。

## 事例 【50代女性（精神疾患がある・親族いない）の場合】

両親が亡くなったが相続ができておらず、頻りに救急車を呼んだり、昼夜問わず近所の人に電話するなどの行動があり、民生委員児童委員より相談がありました。相続手続、財産管理、定期的な見守りが必要であり、ご本人からも支援をしてほしいとの希望があり、制度を利用することになりました。定期的な訪問をして困り事をお聞きしたり生活費をお渡しすることで安心した生活を送られています。

## 日常生活自立支援事業



社協と契約することで、福祉サービスの利用や金銭管理など、日常生活に必要なことについて自分一人で判断することに不安がある方の支援を行う。

## 事例 【70代男性（独居・親族いない）の場合】

一人暮らしで親族もいないため、病院を退院した後は、ヘルパーを利用しながら生活をする予定です。しかし日常のお金の管理に不安があり、何か制度を利用できないかと病院から相談がありました。利用意思と契約能力もあるため、制度を利用始めました。2週間に1回訪問し、病院代や公共料金の支払いをお手伝いすることで安心した生活を送ることができています。

## これからあんしんサポート事業

身寄りがおらず、日ごろの見守りやご自身で判断できなくなった時のこと、亡くなったあとのことについてご本人が判断できる間に社協と契約して支援を行う。

事例 高齢になり、独身で子供がいないので将来が不安。どうしたらいいのかわらないとの相談がありました。ご本人の意向を確認し、任意後見制度（判断能力が低下した時に備えて、ご本人自らが選んだ人（任意後見人）に、財産管理や生活に関する事など代わりにしてもらう制度）をご紹介します。任意後見人である専門職の方に見守りや死後の支援を依頼したことで安心して生活されています。



## 成果

成年後見制度やその他の権利擁護支援等、ご本人の困りごとやニーズを聞き取り、適切な制度の紹介やつなぎを行った。判断能力の不十分な状態になっても安心して暮らせるようご本人および支援チームへ支援を行った。

## 今後の取組

広報啓発活動の強化、権利擁護支援の推進を図りながら、引き続き丁寧な相談対応を行い、必要な制度への繋ぎを行う。



## 高知市生活支援相談センターの相談状況

	新規相談件数	本人特定ケース数(※)
令和3年度	708件	498件
令和4年度	739件	364件

※ 新規相談件数の内、来所や訪問等によって相談者を特定し直接受付したケース

相談の傾向

- ・貸付や給付金を使い終わってもまだ困窮状態が続いている
- ・コロナ離職してから再就職先がなかなか見つからない
- ・日々ギリギリの生活で次回収入まで食料が足りない など

緊急支援の増加

【食料提供件数の推移】

	R2	R3	R4
	81件	150件	170件

【食料の提供元】

- ・高知県社会福祉協議会
- ・こうち食支援ネット
- ・フードバンク高知
- ・高知市社会福祉法人 連絡橋議会 など

## スクリーニング実施ケース（対応方針決定）全354件のうち

- 情報提供等で対応終了……………177件
- 他制度・窓口へのつなぎ……………122件
- 支援プラン策定し継続支援……………48件
- 同意に向けて取り組んでいる……………7件

- つなぎ支援の内69件が生活保護関連のつなぎ
- プラン等による支援継続中ケースは約90件（前年引継ぎ含む）

## 生活困窮者支援の成果と課題

【就労自立支援の成果】

ハローワーク等と連携し、生活困窮者の早期就職に向けた伴走型支援を実施

支援対象者	前年度から引継ぎ	27	53
	R4年度新規	26	
支援結果 (計53名)	就職決定	25	
	就職前終結	14	
	就職活動継続中	14	
終結理由 (計14名)	支援辞退	8	
	体調不良	2	
	生活保護へつなぎ	4	

【アウトリーチの取り組み】

自立相談支援員が積極的に関係団体主催のイベントや相談会等に出向き、生活困窮者に対するアウトリーチと事業周知等を行った

○相談会イベント等への参加…6回

- ひとり親家庭交流イベント（計3回）
- ピアサポフェスティバルin高知（ひきこもり家族会連合会主催）
- 老人クラブ連合会 健康まつり
- イオンモールSDG, s イベント

○事業周知等…5回

- 自治労連 研修集会分科会
- 高知県リハビリテーション研究会勉強会
- 協会けんぽ職員研修
- 高知ブロック隣保館連絡協議会
- 生活支援ボランティア研修

成果

特例貸付や家賃給付等によってセンター事業の市民周知度は上がっており、就労支援や緊急的な生活のつなぎなど困窮世帯への支援では成果も見られた

今後の取組

一方で更なる経済的支援を希望される相談者は後を絶たず、生活保護制度へのスティグマ(偏見)等、制度へつながらず相談支援による継続的な関わりが困難なケースも多い。特例貸付償還も開始され、今後担当部署と連携し、相談者の状況に応じて償還の減額や猶予を含め丁寧な対応に努めていく必要がある



## こうちセーフティネット連絡会 ～支援者同士の顔の見える関係づくりに向けた取り組み～

(R4年度 2回開催)

○参加団体 (R5年3月末時点)  
35団体51部署



### 7月21日「第1回 こうちセーフティネット連絡会」オンライン&会場

- 児童家庭支援センター、高知検察庁、こうちネットホップ（ホームレス支援）、こうち食支援ネットなど新規実施となった事業や新たに参加いただいた団体から取り組み報告をもらい、若年者・刑余者・ホームレス等に対する支援のための情報交換を実施。

### 2月7日「第2回 こうちセーフティネット連絡会」オンライン&会場

- バトスピーチ形式で「阻害要因を抱えた方の就労までの道のり」「ひきこもりから地域への社会参加」をテーマに関係団体からの発表を行ってもらい、ひきこもりや8050事例の支援に活用できる情報共有を図った。

**成果** 支援者同士顔の見える関係づくりや連携体制構築のためネットワーク会議を開催。R4年度は新たに3団体が参加し、ネットワークが広がっている

**課題** 今後本ネットワークを多機関協働のしくみにどのように位置づけていくか整理していくことが課題であると考えている

## 就労準備支援事業の取り組み（社会や就労へ踏み出す第一歩に向けて！スキルアップ講座の開催）

新規実施

就労準備支援対象者の就労や社会参加に向けたソーシャルスキル講座を開催（R4年度⇒3回）



### カラーユニバーサルデザイン～色んな見え方を知ろう～【6月実施】

- 公益財団法人高知県身体障害者連合会の金平景介氏を講師に招き、就労準備支援プログラムの活動の一環として取り組む「ほおっちゃんカレンダー作成」にも講座で学んだことを取り入れた。

### 自分の体のケアを自分で～理学療法士のストレッチ講座～【10月実施】

- 市社協内の有資格者に講師となってもらい、運動不足気味の利用者に日常生活でも正しい姿勢を意識することの必要性と自宅でも取り入れることができるセルフケアを体験してもらった。



### お口のケアをしよう！～歯と生活の健康講座～【1月実施】

- うぐす歯科医院の歯科医師を講師に迎え、生活と歯の健康講座を開催。口腔ケアのみならず生活における健康意識の向上や衛生の観点からも利用者に向けアドバイスをいただいた。



### 【R4年度実績】

協力事業所開拓・・・28か所  
⇒30か所

事業利用者・・・19名

就労準備プログラム・・・58回

就労訓練プログラム・・・100回

職場体験プログラム・・・4か所（4名）

社会参加プログラム・・・685回

**成果** 令和4年度は就労準備段階の利用者に対し就労や社会参加を目指す上で必要となるソーシャルスキルトレーニング講座を新規プログラムとして実施。また、就労訓練や職場体験の受入れ事業所（協力事業所）として本事業に理解を示していただいた民間企業2社の開拓を行った。

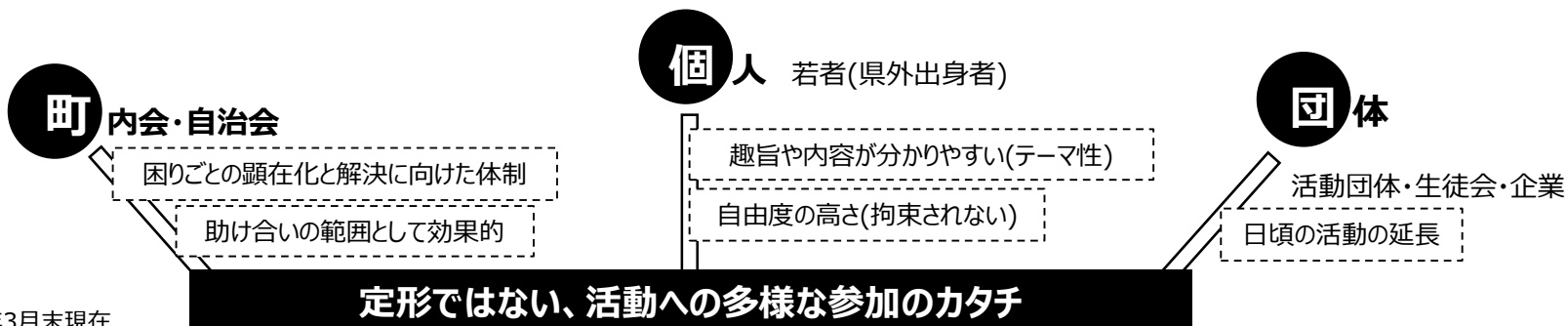
**今後の取組** 今後の取組として、障がいの特性や本人の意向等によって、必ずしも就労自立をゴールとしない方針で関わっている利用者が増加しているため、地域の居場所やボランティア活動等の社会参加を目指す場合の支援について充実させていくことが必要となっている。

# 5 生活支援ボランティアの養成・活動支援

基本目標 1 地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化  
 1-1 住民主体の地域福祉活動の推進  
 1-2 地域の多様な主体がつながる(連携・協働)仕組みづくり  
 基本目標 5 つながりのある相談支援体制の構築  
 5-1 地域における見守り体制の強化と相談機能の充実  
 5-2 相談支援機関の連携体制の構築・強化



高知市社会福祉協議会



<登録者について> 令和5年3月末現在

新規登録者			登録者 総数	マッチング 件数 (R4年度)
R2	R3	R4		
39	27	39	105	33

<対象エリア(登録者居住エリア)>

旭・小高坂・高知街・江ノ口西・江ノ口東  
 朝倉・鴨田・一宮・秦・三里

**仕** 組づくり 制度外サービスの制度化

## 高知市基準緩和型訪問サービスB事業

土佐いっく成年団

- 令和4年10月から事業開始
- 困りごとの受付及びマッチングの役割をウェルプラザ高知が担当
- こうち笑顔マイルーজのボランティアポイント付与



<土佐いっく成年団>



<不燃物搬出支援>



<スキルアップ研修>

## 生活支援ボランティア

地域生活課題との「出会い」と「学び」

活動の「感謝」と「喜び」  
 支え合いの循環  
 地域貢献  
 福祉教育的機能  
 専門職と地域をつなぐ  
 「想い」をカタチに変える

## つながりづくり

生活支援をキッカケに  
 顔の見える関係づくり

### 実際の声

#### <専門職>

・制度では対応できない、でも困っている「ちょっとしたこと」は沢山ある。生活支援ボランティアの存在は貴重。

#### <利用者>

・人と久しぶりに喋った。温かい人がいるもんですね。

## スキルアップ体制の整備

### スキルアップ研修～木枯し紋次郎セミナー～

相談者の中には、認知症や障がい特性等によって関わる際に配慮が必要な方などいることから、障がい・高齢の各分野の専門知識の習得及び関わる際の留意点等について学ぶ機会として実施。全3日間の日程で開催。

<受講者数> **11**名

(生活支援ボランティア養成講座を受講し、登録している方が対象)



# ⑤ 生活支援ボランティアの養成・活動支援

基本目標 1 地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化  
1-1 住民主体の地域福祉活動の推進  
1-2 地域の多様な主体がつながる(連携・協働)仕組みづくり  
基本目標 5 つながりのある相談支援体制の構築  
5-1 地域における見守り体制の強化と相談機能の充実  
5-2 相談支援機関の連携体制の構築・強化



高知市社会福祉協議会

## 事例 三里つながりたい(生活支援ボランティア)の活動

令和3年度より中学校と連携した取組を実施。今年度は、その内容の充実を図るとともに、新たに高知県立大学と連携した取組を実施するなど、活動の拡充が図られている。また、他地区への波及に向けた働きかけにも繋がっている。

高知県立大学

協働

三里つながりたい(生活支援ボランティア)

協働

三里中学校

### 【種崎地区】

- 協働した取組の展開に向けて意見交換を実施。
- 三里つながりたいのメンバーとともに、地区踏査を実施。
- 振り返りの中で、地域内に住む高齢者の現状を把握する必要性について共有。
- 三里つながりたいと県立大学の学生がセットとなり、高齢者宅を訪問。生活の状況等についてヒアリングを実施。

#### ◎活動実施日

地区踏査：令和4年7月6日

ヒアリング：令和4年12月14日



＜地区踏査の様子＞



＜ヒアリングの様子＞

### 【十津地区】

- 令和3年度に引き続いて取組を実施。
- 夏休みと冬休みに計3回実施。
- 生徒会を中心に、他の学生にも声掛けを行うことで参加者29名と倍増。
- 生活支援ボランティアに関する座学を受け、活動を実施。
- 新たに学生が作成した困りごとと募集チラシを配布するなど、学生の主体性も向上している。

#### ◎活動実施日

令和4年7月26日・8月23日・12月27日



＜学生作成チラシ＞



＜活動の様子＞

### ＜地域福祉コーディネーターによる支援＞

- ◆生活支援ボランティアに関する学びの機会及び活動の展開に向けた三里つながり隊との意見交換の場づくり
- ◆困りごととの集約・整理(地域包括支援センターとの連携)
- ◆活動当日のマッチング支援

さらに

### 他地区への取組の波及に向けた働きかけ

繋がりのある市内の他の中学校にも、学生と協働した取組について提案及び意見交換を実施。生活支援ボランティアに拘らず、学生の主体性を大切にした多様な取組の展開に向けて検討を進めている。

## 取組計画

（令和4年度 第1回 高知市地域福祉計画推進協議会(R4.6.1開催分)より）

- ほおっちゃん相談窓口の全市展開に向けた計画的な人材の養成
- 新たな担い手の発掘のために、学生や働き盛り世代等と協働した取組の展開についても検討する。
- 広報活動の強化

## 取組の成果

## 生活支援ニーズの顕在化

地域住民や各種専門職に対して活動の広報を実施することで、依頼件数や問合せ件数も増加しており、これまで把握できていなかった生活支援ニーズの把握に繋がっている。

## スキルアップの機会づくり

生活支援ボランティアの依頼が多い、障がい・高齢・生活困窮者支援の知識の習得及び関わる際の留意点等について学びを深めることが出来た。

## 学生や働き世代の参画

活動内容が分かりやすく、なおかつ人に感謝される活動は、企業や学生等、これまで地域福祉の分野とは関わりの薄かった層への働きかけという点でも効果的。

## 取組の拡充と横展開

令和3年度より活動を開始した三里中学校との協働に加え、高知県立大学との協働など、継続することで活動の拡充が図られている。また、他の中学校にも学生と協働した取組について提案するなど、横展開も進めている。

## 制度外サービスの制度化

先行して取組を実施してきた土佐いつく成年団の活動が、令和4年10月より高知市基準緩和型訪問B事業を実施。

## 広報活動の強化

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所からの依頼件数も増加しており、専門職との連携体制の強化を図ることが出来ている。

## 今後の取組

- 困りごとの解決に向けた体制の整備として、新たな活動者の発掘等、計画的に人材の養成を進める。
- 三里中学校やセントラルグループ等、学生や働き世代等と協働した取組みの継続及び充実を図る。
- 取組エリアに偏りがあるため、好事例の情報提供等を通じて、取組の横展開を図る。



### ※ほおっちょけんネットワーク会議とは？

ほおっちょけん相談窓口寄せられる相談内容や住民が日常的に見聞きする困りごと等の共有を図りながら、参加者自らが解決の主体となって新たなつながりや社会資源を生み出していくための話し合いの場。



### □実施状況（令和5年3月末現在）

地区	取組開始年度	種類	参加者等	回数	参加者(延べ)	生活支援体制整備事業第2層協議体
江ノ口西	R2年	新規立上	地域住民(町内会長, 民生委員児童委員, 主任児童委員, 公民館長等), 企業(サニーマート, 毎日屋あたご店, こうち生協), 有償ボランティア団体(シルバー人材センター, コープたんぼぼ), 高知新聞販売所, 交番, 薬局, 地域包括支援センター, 市社協	4	108	協働
一宮	R2年	既存会議体活用	地域住民(老人クラブ, 民生委員児童委員, コミュニティ計画推進市民会議), 薬局, 社会福祉法人, 地域包括支援センター, 市社協	1	23	協働
秦	R3年	既存会議体活用(機能付加)	地域住民(地区社協, 老人クラブ, 民生委員児童委員, 町内会長等), 企業(毎日屋あたご店, AceONE), 有償ボランティア団体(シルバー人材センター, コープたんぼぼ), 薬局, 地域包括支援センター, 市社協	3	119	協働
初月	R3年	新規立上	地域住民(地域内の各種団体の代表者), 社会福祉法人, 地域包括支援センター, 市社協	2	33	協働
旭	R4年	既存会議体活用	医療生協(旭西支部・旭南支部), 医師, 薬局, アテラーノ旭, 有償ボランティア団体(シルバー人材センター, コープたんぼぼ), 地域包括支援センター, 市社協	3	42	協働
御豊瀬	R4年	既存会議体活用	地域住民(民生委員児童委員, 町内会連合会会長, 地区社協, ふれあいセンター長等)地域包括支援センター, 市社協	1	10	協働

NEW

NEW

### ◎Point◎

ほおっちょけんネットワーク会議という名称で開催はしてなくても、既存の会議体の一部の時間を活用して、ほおっちょけん相談窓口寄せられている相談件数や相談内容について共有し、解決策の検討を実施するなど、各地域の実情に応じた取組を実践している。

【例】民生委員児童委員協議会、地域内連携協議会、コミュニティ計画推進市民会議、福祉委員会 等

# ⑥ ほおっちょけんネットワーク会議の運営支援

基本目標 1 地域共生社会の実現に向けた地域での課題解決力の強化  
 1-1 住民主体の地域福祉活動の推進  
 1-2 地域の多様な主体がつながる(連携・協働)仕組みづくり  
 基本目標 5 つながりのある相談支援体制の構築  
 5-1 地域における見守り体制の強化と相談機能の充実  
 5-2 相談支援機関の連携体制の構築・強化



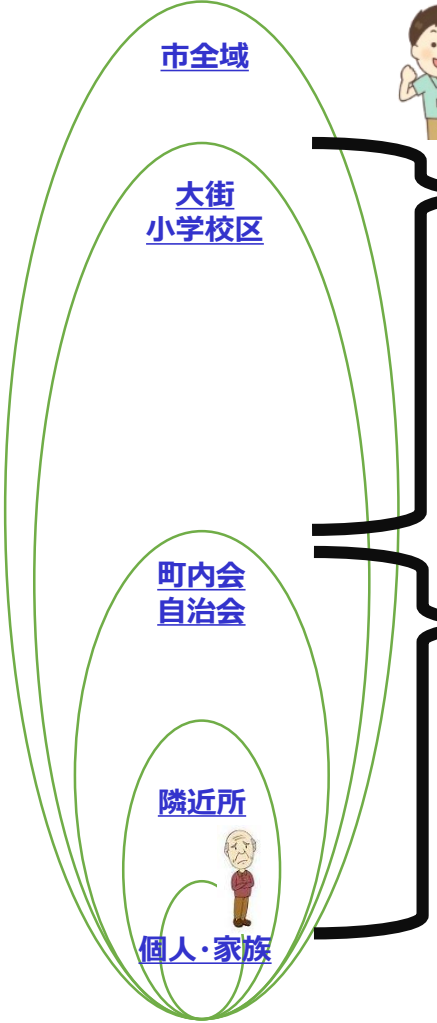
## 事例 秦つながり会議～ほおっちょけんVer～

【実施日】ほおっちょけん委員会：令和4年10月20日(木)  
 秦つながり会議：令和4年5月13日(金)、令和5年3月16日(木)



### ＜地域福祉コーディネーターによる支援＞

- ◆有償ボランティア団体や企業等の多様な主体への取組説明及び参加依頼
- ◆会議の進行(地域生活課題の投げかけと課題解決に向けたアイデア出し)



### 年1回 秦ほおっちょけん委員会(地区全体を対象とした話し合いの場)

- 地区社協
- 企業
- 有償V
- 地域包括
- 市社協

各団体の代表者で構成。その他、薬局やスーパー、有償ボランティア団体等が参加。  
 「秦つながり会議(町内会程度のエリアにおける会議体)」にて共有された困りごとのうち、「ゴミ出し」と「移動」の課題にテーマを絞って意見交換を実施。それぞれの課題に対して、「地域で出来ること」「企業などで出来ること」を話し合った。

### 解決策の具体例

- (ゴミ分別) →→→ 有償ボランティア団体のワンコインサービスの活用
- (不燃物搬出) →→→ 生活支援ボランティアが手伝う
- (不燃物搬出) →→→ 購入した物品の配達時に缶・ビン等を回収する
- (移動面) →→→ スーパーの買い物バスの利用

### 年2回 秦つながり会議(町内会程度のエリアにおける話し合いの場)

- 民生委員
- 町内会長
- 老人クラブ
- 地域包括
- 市社協

民生委員児童委員や町内会長等で構成。各町内会毎にグループをつくり、「地域のなかのちょっとした困りごと」と「その解決に向けたアイデア」について話し合いを実施。

### 解決策の具体例

「ひとり暮らし(年齢にかかわらず)の方とのつながりがない、情報が分からない」  
 →→→「町内会単位での話し合いの場を持ち、情報を共有する。(マップづくり等)」

**活動の発展** 北秦泉寺南地区(4町内会) <1回目>R4.11.11 <2回目>R5.3.3  
 秦つながり会議には出席していない町内会役員や元民生委員児童委員なども交えて地域生活課題の見える化を図った。





## 取組計画

(令和4年度 第1回 高知市地域福祉計画推進協議会(R4.6.1開催分)より)

- 多様な主体がつながる出会い・学びのプラットフォームの促進
- 多職種協働に向けた取組の展開

## 取組の成果

## 助け合い・支え合いの意識の醸成

ほおっちょけん相談窓口寄せられる相談や地域包括支援センターが地域ケア会議等を通じて把握している課題等について、地域での支え合い・助け合いの視点で話し合える場となっている。

## 地域側の負担軽減を考慮した取組の提案

ほおっちょけんネットワーク会議の全市展開については、地域側の負担軽減も考慮し、既存の会議体を活用し同機能を位置づけるなど、地域の実情に応じた取組を展開している。(例：民児協の定例会活用、老人クラブの定例会活用など)

## 多様な主体がつながるプラットフォームの促進

ほおっちょけんネットワーク会議を実施している地域では、これまで福祉に対して関心の低かった人や機関など分野を超えた幅広い関係者が出会い、学び合うことが出来ており、既存活動の拡充や新たな活動の創設にもつながっている。

## 地域包括支援センターとの協働

生活支援体制整備事業における第2層協議体としても位置付けて、各地域包括支援センターと協働で会議を運営している。

## 今後の取組

- 既存の会議体の活用を前提に、ほおっちょけんネットワーク会議の全市展開を進める。
- 地域生活課題の掘り起こしや困りごとの解決に直結する福祉的な活動だけでなく、楽しそう、面白そうといった興味・関心から地域でのつながりが生まれる場や取組にも着目した環境整備を進める。
- 地域別共生カルテ作成等の機会を通じて、地域で事業を展開する高知市の各所管課との連携を進める。





## 取組 1 ほおちよけん学習の実施

＜実施状況＞ 令和5年3月末時点

	保育 幼稚園	小学校等	中学校 高校	専門学校 大学
実施箇所数(人数)	7(145)	13(705)	1(17)	2(61)
働き掛け箇所数	19	21	5	2

※新型コロナウイルス感染症の影響により、実施を見合わせる園や学校が増加

## 取組 2 サポーターの養成・活動支援

＜新規登録者の推移＞

新規登録者			登録者 総数	活動率
R2	R3	R4		
49	25	3	77	87%

● **学習サポーターフォローアップ研修**  
サポーター登録者を対象に開催。  
日本福祉大学の原田正樹教授を招き、  
福祉教育に関して学びを深めた。

【参加者】29名



# 福祉教育の推進

地域福祉は  
福祉教育ではじまり  
福祉教育でおわる

強化

## 取組 3 企業向け学習の実施

● 実施及び働きかけについて

実施箇所数(人数)	2(29)
働きかけ箇所数	11

● 地域活動とのマッチング支援

ほおちよけんネットワーク会議への参加や生活支援ボランティアの実施など、企業の実情に応じた活動を提案・コーディネート。

NEW

## 取組 4 多様な主体の参画

● 社会福祉法人連絡協議会による実践

地域公益活動推進部会にて福祉教育を実施。  
市社協が実施している「ほおちよけん学習」の内容をベースに、企画から実施までを複数法人が連携して実施。

【実施場所】朝倉くすのき保育園分園

【参加者】児童：23名 部会員：8名



NEW

## 事例 (株)セントラルグループ新人研修「ほおっちょけん大作戦」

実施日：令和4年10月6日（火）、12月22日（木）  
 参加者：14名（新人職員9人、人材開発部5人）

新人研修の一環として、高齢者宅の年末の大掃除をお手伝い。  
 自力では難しい窓ふきや風呂掃除、草刈りなどを実施。



### <地域福祉コーディネーターによる支援>

- ◆ 関係機関への活動周知及び困りごとの集約、当日のマッチング支援
- ◆ 事前学習及び活動後の振り返りを通じた学び・気づきの場づくり

令和5年度も継続的に実施予定

### 学び

### 「認知症サポーター養成講座」「生活支援ボランティア養成講座」の実施

活動の前に、高齢者に関する基本的な知識や、かかわる上での留意点等に学びを深めた。  
 参加者のアンケートには、「まだ認知症の方とお会いしたことはないですが、お客様の年齢層は高く、ご年配の方も多くいらっしゃるの、仕事だけじゃなく、周りの認知症の方を安心させてあげられるような対応を取っていきたいです。」との意見が聞かれていた。

### 活動

### 生活支援ボランティアの実施

4班に分かれて活動を実施。午前・午後の活動で、計 **10** 件の困りごとを解決。  
 訪問先では、相談者の方と交流する場面もあり、「人にお礼を言われると、こっちまで嬉しくなります。」といった感想が聞かれていた。

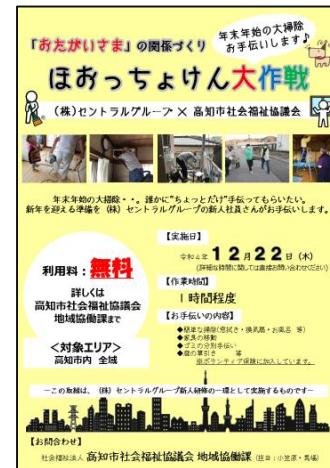
### ふりかえり

### 班ごとに分かれて、ふりかえりを実施

活動を通じて「気づいたこと・感じたこと」について共有。同僚の意見を聞くことで学びを深める。

#### <意見抜粋>

- ボランティアで対応できたのはごく一部。生活の中で困っている人は多いんだろうと感じた。
- 自分自身も年をとって、1人ではできない事が増えてきた時に、このような活動を地域などで、行ってくれていると、とても助かるだろうと感じました。
- プライベートでもボランティアに参加できる機会があれば、ぜひ参加してみたいです。
- 活動前に座学を受けていたことで、高齢者の方にかかわる際の不安が軽減した。



#### <チラシ>



#### <活動の様子>



#### <振り返りの様子>



## 取組計画

(令和4年度 第1回 高知市地域福祉計画推進協議会(R4.6.1開催分)より)

- 生涯学習の視点での取組の展開
- 福祉教育推進マニュアル「ほおちよけん学習のススメ」を活用した人材育成や学習実施場所の新規開拓に向けた働きかけ
- 企業向けほおちよけん学習の機会の拡大
- ほおちよけん学習サポーターの養成・活動支援
- 社会福祉法人との連携

## 取組の成果

生涯学習の視点での取組  
(福祉教育的機能の意識)

ほおちよけんネットワーク会議や生活支援ボランティアの活動を通して、住民自らが地域生活課題に気付いたり、実際の支援を通じて課題に触れることで、地域への関心を高めることに繋がっている。

## 様々な機関とのつながり

新型コロナウイルス感染予防の視点から開催には至らないケースが多いものの、福祉教育推進マニュアル「ほおちよけん学習のススメ」を活用し働きかけを強化することで、保育園や幼稚園、小学校や企業等とのつながりが広がっている。

## 企業との連携・協働

ほおちよけんネットワーク会議への参加や生活支援ボランティアの実施等、柔軟なコーディネートを実施することで、連携・協働した事例が生まれている。

ほおちよけん学習サポーター  
の活動支援

ほおちよけん学習サポーターについては、新規登録者の発掘よりも既存登録者の活動支援に注力することで、活動率の上昇につながっている。

複数法人が連携した取組  
の推進

高知市社会福祉法人連絡協議会 地域公益活動推進部会にて福祉教育を実施。互いに役割分担を行い連携して取組を展開。また、新型コロナウイルス感染症により延期といなっているが、福祉専門学校における福祉授業の実施も計画しており、福祉人材の確保に向けた検討も進めている。

## 今後の取組

- ほおちよけん学習実施場所の新規開拓に向けた働きかけを強化するとともに、新型コロナウイルス感染症によって休止中となっている実施先への働きかけを行う。
- ほおちよけん学習サポーターの新規開拓及び活動支援を実施するとともに、これまでのほおちよけん学習の振り返りや更なる学習の充実に向けた検討を行う。
- 社会福祉法人と連携し、福祉人材の確保に向けた取組を展開する。(福祉専門学校や福祉系大学における授業の実施等)



## NEW 事例 NPO高知市民会議と連携した子育てイベントの実施

### 江ノ口地区こそサポ(子育てサポート)交流会

#### ◎ 支援者向け交流会 (R4.7.1実施) 参加者37名

子育て支援にかかわるボランティアや専門職の交流を目的に開催。江ノ口地区の子育てに関する社会資源の取組事例等を共有するとともに、参加者それぞれの活動の発展や連携・協働した取組について意見交換を行った。

#### ◎ 子育て世代向け交流会 (R4.11.27実施) 参加者68名

子育て世代同士だけでなく多世代や支援者とつながれる場づくりを目的に開催。専門職による相談ブースの設置や地域の活動者によるステージ発表などを実施。



<支援者向け交流会>



<子育て世代向け交流会>

#### <地域福祉コーディネーターによる支援>

- ◆ 会議の開催に向けた支援(検討会への参画、当日までの準備、当日の運営等)
- ◆ 運営ボランティア(民生委員・主任児童委員等)のつなぎ



## NEW 事例 ユニクロ(土佐道路店・高知介良店)との協働

### 高齢の方・障がいのある方のためのお買い物体験イベント

ユニクロが展開している「地域協業」の取組として、開店前の時間を活用し、普段はユニクロでの買い物が難しい高齢者や障害者を対象としたお買い物体験イベントを実施。

#### <開催回数> 令和5年3月末時点

土佐道路店：4回 高知介良店：2回

#### <地域福祉コーディネーターによる支援>

- ◆ イベント開催に向けた支援(企画・準備・当日の運営等)
- ◆ 広報・周知面での支援(地区社協・民児協、高齢・障がいの各法人・施設等への周知)



<チラシ>



<イベントの様子>



## 高知市社会福祉法人連絡協議会との連携

### NEW 生活困窮者支援

生活困窮者等からの相談対応を総合的に行うとともに、逼迫した状況にある場合には、現物給付等による経済的支援を行うなど、生活困窮者等の自立を支援することを目的とした事業を実施。

**令和4年10月より事業開始**



### NEW フードドライブの実施

令和4年10月～12月の期間に会員法人の職員や利用者への周知を実施。約80点の寄付があり、高知市生活支援相談センターを通じて生活困窮者支援に活用した。



### NEW 福祉教育の実践

市社協が実施している「ほおっちょけん学習」の内容をベースに、企画から実施までを複数法人が連携して実施。

【実施場所】朝倉くすのき保育園分園

【参加者】児童：23名 部会員：8名

会員法人  
全体

地域公益  
活動推進

【事務局】高知市社会福祉協議会

### 「出張！ほおっちょけん相談窓口」の実施

イオンモール高知のSDGs週間に合わせて実施。  
 【日時】令和4年10月16日(日)10:00-15:00  
 【場所】イオンモール高知セントラルコート  
 【連携機関】高知市秦地域包括支援センター、  
 高知ひきこもりピアサポートセンター、  
 NPO法人AKKこうち



相談窓口  
推進

災害対策  
連携

### 研修の実施～被災地から学ぶ～

実際に被災した法人の被害時の状況等について聞くこと、各法人の災害に対する取組への理解を深めるとともに、今後の災害対策連携部会の取組に活かすことを目的に研修会を実施。

- 講師：真備かなりや保育園  
(岡山県倉敷市)
- 参加者：8法人20名



### 法人間連携に向けた検討

局地災害で被災した際の法人間連携(物的・人的支援)について意見交換を実施。

**複数法人が連携した「地域における公益的な取組」**